

防災減災学術連携委員会（第 25 期・第 11 回）

議事要旨

日 時：令和 5 年 2 月 2 4 日（木）9:00～10:05

会 場：Zoom ミーティングを用いたオンライン会議

出席者：米田雅子（委員長）、安村誠司（副委員長）、田村和夫（幹事）、永野正行（幹事）、  
今村文彦、大西隆、菊地優、小池俊雄、齊藤大樹、鈴木康弘、高橋良和、  
竹内徹、中村尚、平田直、森口祐一、山本あい子、山本佳世子、吉原直樹、  
若尾政希（19 名）

欠席者：畝本恭子、寶馨、目黒公郎、（3 名）

事務局：齊藤美穂、稲元祥吾

議 題：

- 1) 前回議事要旨案の確認
- 2) 関東大震災 100 年シンポジウムの企画案について
- 3) 第 15 回防災学術連携シンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の  
展開」の広報について
- 4) 第 5 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」のテーマ案について
- 5) その他

配付資料：

資料 1：防災減災学術連携委員会（第 25 期・第 9 回）議事要旨（案）

資料 2：防災減災学術連携委員会（第 25 期・第 10 回）メール審議結果

資料 3：学術フォーラム様式[関東大震災 100 年シンポジウム]

公開シンポジウム企画提案書（案）

資料 4：過去の府省庁連絡会&防災学術連携シンポジウム

資料 5：第 15 回防災学術連携シンポジウムプログラム

資料 6：関東大震災 100 年関連行事の学協会への調査

議 事：

1) 前回議事要旨案の確認

- ・ 田村幹事より、資料 1 を用いて、第 9 回委員会の議事要旨案の説明があり、異議なく承認された。
- ・ 引き続き田村幹事より、資料 2 を用いて、前回（第 10 回）委員会議事要旨案（メール審議結果）説明があり、異議なく承認された。

2) 関東大震災 100 年シンポジウムの企画案について

- ・ 永野幹事より、資料 3 を用いて、関東大震災 100 年シンポジウムのプログラム及び開催方式の企画案の説明があった。
- ・ 7 月 8 日に、日本学術会議講堂にて対面とオンラインのハイブリッド方式で開催すること、学術フォーラムとしての開催を申請する案について説明され、了承された。
- ・ 関連して、小池委員より、持続会議の分科会の活動に関する情報提供があり、関東大震災や壊滅的な災害からの復興過程で学んだことを共有し、壊滅的災害を乗り越えるための社会への変革に関することをテーマとした国際会議を 9 月に 2 日間かけて開催することの説明があった。本件に対しては、防災減災学術連携委員会としても協力する。
- ・ 関連して、米田委員長より、資料 6 を用いて、関東大震災 100 年の関連行事を集める活動が内閣府の防災担当との連携活動に広がり、ロゴマークも内閣府の公式ロゴに採用されたことの報告があった。

3) 第 15 回防災学術連携シンポジウム「気候変動がもたらす災害対策・防災研究の新展開の広報について

- ・ 米田委員長より、資料 5 を用いて、標記シンポジウムの開催準備状況の説明があり、すでに多数の参加申し込みが来ているが、引き続き広報いただくことの協力要請があった。

4) 第 5 回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」のテーマ案について

- ・ 田村幹事より、資料 4 を用いて、過去の府省庁との連絡会の開催テーマについて説明があった。
- ・ 各委員より以下のテーマが提案された。
  - ・ 国内外の新たな災害に対応できる人材育成の現状と課題
  - ・ 文化財の保全、災害予防対策
  - ・ 関東大震災を踏まえた今後の壊滅的災害への備え
  - ・ 省庁・学術界以外との連携
  - ・ 国際防災への貢献
  - ・ 市民の災害対応力、災害対応に向けた市民活動との連携

- ・ 被災の経験・伝承
  - ・ 日本の技術（免震等）の国際展開
  - ・ 関東大震災後の政策等の変化、文化財と防災
  - ・ 関東地震を受けた国・社会の対応、アーカイブ化
  - ・ 人材育成、国際関係、情報伝達のあり方
  - ・ 政策決定に向けた科学的根拠に基づく助言、DX
  - ・ 仙台防災枠組みの4つの優先行動に向けた活動をテーマごとにまとめる方法
  - ・ 専門知と現場知の融合、施策のモニタリング、関東大震災のデータ
- ・ 以上も踏まえ、次回委員会にて、引き続き府省庁との連絡会のテーマを検討することとなった。

#### 5) その他

- ・ 米田委員長より、防災学術連携体により、2月27日の18時よりウェビナーにてトルコ・マラッシュ地震に関する緊急報告会を開催することの連絡があった。この報告会では、平田委員に地震に関する説明をしていただき、その後でトルコの専門家から震災の状況を報告いただく。本委員会も協力する。

以上